

団体名	国立大学法人福井大学国際センター							
事業名	福井のこしひかり米づくり							
実施期間	平成29年5月～平成30年1月							
場 所	福井県福井市							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	35	14	10	127	3	10	0	199名

<実施内容>

福井大学の留学生や福井に住んでいる外国人が、福井の日本人や福井大学の日本人学生といっしょにお米を作りました。それは、福井の文化や伝統について、米作り体験を通して学んだり、福井や日本にあるものの価値を見つけながら、いい関係をいっしょに作りたいたと考えたからです。

具体的には、「こしひかり」という日本のお米が福井で初めて作られたということから、「こしひかり」を作ることにしました。お米を作った場所は、700年前にお城があった高須町という山の中で、空気がとてもきれいなところ。ここで、田植え、稲刈り、はさかけというお米を作るために必要なことをしました。高須町ではもともとお米を作っていたので、留学生や日本人学生、福井に住む外国人が、高須町の方たちに、やり方を教えてもらいながら、作業をしました。

5月20日に「田植え」でお米のもとになるものを植えて、9月24日に大きくなった稲を刈り、11月19日の「収穫感謝祭」では、いっしょに米作りをした人たちが集まって、お米がたくさん取れたことに感謝しました。

<記録写真>



田植えの様子



稲刈りの様子



はさかけ

<参加者からのコメント>

林春宇さん(中国)/Lin Chunyu

わたしは三年ぐらい日本語を勉強してきたが、日本に対しての知識はだいた学校とか本とかによって知られる。例えば、米というものは、英語は全部でriceという一語で表現されるのに対して、日本語で表すのに「こめ」の外に、「稲」「粳」「ご飯」などの呼び名が使われている。なぜかという、日本は稲作を基盤にした農業がきわめて重要な伝統産業だから。それについて知るは知るけど、ただ脳の中で保存された一つの知識に過ぎない。何が言いたいというと、言葉を学んでいると同時に、言葉に関する文化も理解すべきだと思う。そして、その中で潜んでいる文化というのは必ずしも書籍や画像で習得できない。今度は、自分の手で稲作を体験したり、今まで経験したことがない形で働いたりすることができる。そうして、ようやく五感を発動してはじめて伝統の農業とその文化を少しでも習得したという感じがする。

マウリシオさん(コロンビア)/Mauricio Rodriguez

One of those experiences was the rice planting and harvesting. This activity was really meaningful, because I never did a thing like harvesting or planting because I live in a principal city in my home country. By doing this activity I learnt about the traditions and Japanese culture from a different perspective, and I had the opportunity to meet the local farmers, and share time with them, learn and have fun while doing planting and harvesting. Also we had a Harvest Celebration, where we shared food and had another opportunity to meet people and talk with them, but it would be more meaningful experience if the local people could talk more with us, but maybe because the language is a bit difficult thing to achieve, but I think that language is not a burden for making friendships.